

理
窓

理窓教育会報

第29号

平成19年3月3日

東京理科大学理窓教育会

事務局 東京理科大学理窓会館4階

巻 頭 言

東京理科大学理窓教育会 会長(36修化) 酒井 津

『いじめから学ぶ』

平成18年度の教育界は、北海道滝川市、福岡県筑前町など小・中学生のいじめによる自殺とみられる事件をはじめ富山県立高校での必修科目の未履修、学力低下への対応策、教育基本法の改正、教員免許制の導入による中央教育審議会の答申、教職員給与の再検討と多事多端な年になりました。会員の皆様にはご健勝にて活躍のことと存じます。毎日のように文部科学省を通じて、自殺を予告する大臣宛てのファックスが、学校に届いていたとき、奇しくもロータリーの友1月号に京都大学霊長類研究所の正高信男教授の講演録を拝見したのを、参考までにその一部を紹介いたします。

『サルの研究をしていると、よく「サルにもいじめはありますか」と聞かれます。サルの世界にはいじめはありません。いじめというのは、加害者と被害者の間で日常的に暴行の反復を起こすことですが、サルは嫌だったらどこかに行けばいい。同じところにおいて、顔を突き合わせている必要がないのです。

日本的ないじめについて、加害者と被害者だけでなく、加害者に対していじめを加えることを見ている第三者がいるということです。

密室の中で、相手をいじめているだけではやる方は面白くない。やりがいがあるのは、それを見ている人がいるからです。見ている人に対して、「オレはこんなに力をもっているんだぞ」ということを

デモンストレーションできることがわかったときに、いじめはしつこくなるのです。いじめを見ている人は、例えばイラクで自爆テロが起こったというニュースを見ているのと同じ感覚なのです。もし日本で同じようなことが起きれば、心が痛みます。でもイラクで起きてもあまり心が痛みません。なぜかそれは簡単です。イラクに知り合いがほとんどいないからです。

中学校や高等学校でいじめが起きるのは、それを傍観しているクラスメイトが、自分のクラスメイトであるにもかかわらず、遠い国のことのように見ているからです。「私」というものが、体を超えて関係を含んでいくということが、人間の発達、成長なのですが、そういう社会的な成長を十分遂げていないのです。他人は他人、「私」とは何の関係もない。クラスで起きていることも、テレビの中のこと、ゲームをやるのと同じこと、というような人間が育ったときに、いじめが社会問題として起こるのです。

サルは、食べ物、飲み物を報酬として学習しますが、人間は、食べ物、飲み物より、大切な報酬があります。それは社会的に注目されること、社会的に賞賛されることです。

以上ですが、私たち教育現場を預かる者は、日頃から「喜怒哀楽」を共有できる豊かな人間性を備えた人材育成をはかる必要があるのではないのでしょうか。

平成18年度 支部総会報告

岩手支部総会報告

支部長 (42理数) 石川明彦

平成18年11月13日(土)10時、ホテルエース盛岡(盛岡市中央通2-11-35)で、理窓教育会岩手支部総会を開催致しました。本年は、田村應和常任幹事をお迎えしての支部総会でした。例年通り、総会議事として、決算報告、活動計画の他に会費徴収方法の変更が確認されました。今回の研究発表、情報交換は、北里大学名誉教授野村節三先生にお願いし、永年に亘る北里大学での研究や教育の様子、並びに地域への大きな貢献など「研究活動」と「教育活動」を熱く紹介して頂きました。具体的には三陸町教育委員長としての活動、大船渡市三陸地域審議会副委員長として貢献された事柄で、その中の大船渡市立越喜来中学校で実施された「中学校特別授業 講義・実習内容」のプリントを披露されたのが印象的でした。本年は、この後岩手理窓会と協賛して下記のような記念講演を企画していたので、持ち時間が短く、残念でした。これに加え水沢高等学校の高橋匡之先生が、「アテルイの里 黄金文化」にちなみ、歴史的な「金」の文化、役割を解説した教材と「金」について純粋に「化学」的側面からアプローチした両方の教育教材印刷物を用意され、時間的制約で口頭で報告できないので資料配布で研究発表報告に替えました。

その後の理窓会岩手支部総会終了後、本年は記念講演として、本年の「坊ちゃん賞」の受賞者、東京理科大学数学教育研究所 澤田利夫所長にご講演をお願いしました。「数学トレッキングツアー」の演題で、ノーベル賞と数学に関わる逸話や、来年度から実施される「学力調査」の利用のされ方、利用の仕方、調査の意義等大変興味深い講演でした。

宮城支部教育会単独総会報告

支部長 (18理数) 平塚正好

平成18年度総会は私の体調不調で年度ぎ

りぎりの平成19年2月4日(日)12時から14時まで仙台駅二階萩の茶屋にて開催。開くにあたり平成18年11月8日の総会準備会で、新年会を兼ねて開催することにした。単独総会は平成14年第1回開催以来今回が第3回目になり、隔年開催。その他の年度は理窓会支部総会開催の30分前にささやかに開催している。今回の出席者は来賓1名、会員8名計9名で行われた。平成16年の第2回総会と同人数で安堵した。出席者名は来賓佐々木勇三郎(理窓会宮城支部長、昭和34年物理卒)、会員としては平塚正好(理窓教育会宮城支部長、昭和18年数学卒)、小松学(理窓教育会宮城副支部長、昭和20年応物卒)、狩野克範(昭和35年数学卒)、小畑耕一(昭和38年理物理卒)、高橋康之(昭和41年化学卒)、谷津郁朗(昭和50年応物卒)、松山伸也(昭和53年工工化卒)、菅原光博(昭和55年理工応生卒)、が出席した。現在会員数は57名、内高校35名、中学17名、小学1名、私学4名である。総会の議題は会則改正、役員改選、今後活動(総会の持ち方と研究活動、その他として母校125周年募金は平成20年までなので協力要請。今総会の特徴として平成16年第2回単独総会決議事項の教育会支部会費年500円を平成18年、19年度分として、1,000円を振替えにて納入依頼したことである。今後は事務能率が同上下るとおもう。

会則改正は支部名称変更～東京理科大学理窓教育会宮城支部

事務局補強会計監事庶務会計は高橋康之氏

監事は狩野克範氏

庶務は当分支部長兼務

行政部長門間進氏を推薦

他は留任となりました。

東北6県選出副会長は平成18年で平塚支部長の任期が終了し、平成19年度以降3年間は岩手県の石川明彦支部長が行う予定である。

会計報告は高橋康之氏よりなされ、残高5,190円と報告された。

今後の課題としては

- 一、本部会費納入促進20名
- 二、名簿の整理

三、総会出席率高揚

目標を掲げ支部の活性化に勤める。
その後懇親会を行い自己紹介と近況報告しながら、一層親睦を深めた。
次回単独総会は平成20年度で再開を約して散会した。

茨城支部総会報告

支部長(46理物)小林康則

平成18年度の理窓教育会は、平成18年1月19日(日)10:00から13名の出席のもと茨城県県西生涯学習センター(筑西市野殿)で開催された。

式次第は支部長坂入靖男さん(37理物)、来賓大久保清さん(30理化)のあいさつから始まって講話、懇親会までの例年どおりのものであった。

今年度は支部長の変更があり、坂入靖男さんから小林康則(46理物)への引継ぎが了承された。規約の一部変更も審議されたが細部の語彙の煮詰めのために次回へ継続となった。

茨城県でも平成18年度より県立高校の全県一学区制が施行され、県立高校は(私立高校も含めて)大きな変革の第一歩を踏み出した。式次第の中の講話では、その推進母体の県高校教育推進室で県立高校再編成整備について中心的に活躍されてきた小沼光一さん(54理工数、現県立守谷高等学校教頭)から、施行に至るまでの県の考え方や経緯等についてたいへん興味深い講演を聞くことが出来た。外部からは窺い知れない苦労話も含めて、改めて教育界の置かれている困難な状況に首肯することが多く、もっと多くの会員に耳を傾けてもらえたらと思った。

昼食を兼ねた懇親会では顔なじみの者同士、和やかにざっくばらんな話が弾むなか会を閉じた。

例年、総会の出席者数、会費の納入状況等には満足できない状況である。教育界全体を覆う閉塞感、教育関係者の多忙や無力感など、無理もないと思わせるものもあるが、今後は参加して楽しさや充実感の味わえる支部総会を目指して盛り上げてゆけたらと思う。通信費の一部補助等はあるがたい措置である。

総会終了後、会場近くにある「しもだ

て美術館」アルテリオで辻村寿三郎人形展を見学し全日程を終了した。

最後に、前支部長坂入靖男さんの長年のご苦労に感謝とお礼を申し上げて報告を終えたい。

群馬支部総会報告

支部長(46理物) 辻村 好一

群馬県支部では、平成18年度支部総会を昨年(12月9日(土))に開催しました。

毎年、この時期に理窓会支部総会と理窓教育会支部総会を共に実施し、そのあと懇親会を行うのが恒例になっています。

今年の出席者は17名と例年より少ない人数となりましたが、大学からはお忙しいところを理窓会幹事長児島 紘先生においでいただき感謝申し上げます。先生には大学の近況や125周年記念行事等を中心に理窓会の活動状況をお話し頂きました。

また、今回の理窓教育会支部総会において、林 陽二支部長の勇退をうけて辻村 好一が支部長を引き継ぐことになりました。さらに、その後の懇親会では参加者一人一人の近況報告等を行いました。教育関係現職、OBのそれぞれの立場で県教育界の現状と今後の展望を語ったり、また職を勇退なされた同窓は晴耕雨読の生活や健康について淡々と話す等、なごやかで意義ある会となりました。時のたつのも忘れて進行した懇親会も次回の総会での再会を確認し無事閉会となりました。

例年、参加者が固定化する傾向があり、今後さらに出席者を増やす工夫を考えていきたいと思っております。

神奈川支部総会報告

支部長(41理物)鈴木 宏司

本県における理窓教育会神奈川支部総会は、理窓会神奈川支部定期総会と兼ねて、毎年7月に行っている。この支部総会は、神奈川県を7つの地区(それぞれの地区に幹事長と数名の幹事がいる)に分けて、その地区が輪番で総会を担当す

るというユニークな方法で行っている。

今年度は、鎌倉・湘南地区がその任に当たり、平成18年7月22日に藤沢産業センターにて開催された。

総会に先立って(株)電子商取引安全技術研究所代表取締役社長、平松雄一氏(375)に講師をお願いし、講演会を実施した。テーマは「情報化時代を如何に生きるか」情報化社会と心の準備 というもので、まさに時代にマッチした大変有意義で考えさせられるところの多い内容で、会員一同引き込まれるように聞き入った。

続いて総会に入り、栗原理窓会神奈川支部長より、創立125周年事業、ホームカミングデイ、理窓会会費納入者及び神奈川支部総会参加者の拡充などを中心に、大学の様子、理窓会本部の動向等について話があった。

その後議事に入り、会計報告等の所定の案件が滞りなく承認され無事に総会を終了した。

総会の後、懇親会に入り、塚本東京理科大学理事長、山田理窓会常任幹事、関根理窓会東京支部長、森野東京理科大学維持会会長を迎え、総勢約60名ほどの参加を得て、和気あいあいとした雰囲気の中、盛大に行われた。

次に、賀詞交歓会であるが平成19年2月17日に「みなと未来21」の景観が一望できる日産横浜ビル21階のホールを今年も会場とし実施する予定。概況報告についてはこの原稿締め切りに間に合わないため割愛させていただく。

その他の報告としては、神奈川県立高校の管理職の集まりである「神楽会」が順調に推移していることと、教諭を対象とする会の立ち上げが現実化しそうであることの2点を申し添えておきたい。

山梨支部総会報告

事務局 (53 理物) 橋田 多喜夫

山梨県支部総会は、例年理窓会山梨県支部総会と合同で開催しており、本年度は平成18年9月30日(土)16時から甲府市「ニュー芙蓉」で、21人の参加のもとで開催された。

来賓として、本部から森田昌宏常任幹

事、東京理科大学から澤芳昭常務理事、地理的に近い諏訪東京理科大学から西山勝廣教授の3人をお迎えして開催した。

森田先生、澤先生は、プロジェクトで創立125周年記念式典の様子を紹介され、盛大に開催された式典の様子を知ることができた。また、大学の施設設備の充実状況をお聞きして、ますます発展していくことをうれしく思っている。

また、西山先生からは、諏訪東京理科大学の教育や、卒業生の大学院への進学状況、好調な就職状況等、卒業生の活躍をお聞きした。

武藤理窓会支部長からは、父母会「こうよう会山梨県支部」設立の話も聞き、理窓教育会支部としても本県の教員を志望する学生へのアドバイス等、今後の連携の重要性を感じた。

昨年度、本支部総会への出席者増加に努力することが確認されたが、本年度は参加者も多く、今後のさらなる発展を皆で願っている。

懇親会においては、近況報告の中で、現職教員から各校の特色や様子などを聞くことができ、有意義であった。

山梨県では40年ぶりに高校入試制度が大きく変わり、平成19年度入試から全県一学区の入試となった。各校ともこれまで以上に特色ある学校づくりに努力しなければならない。この支部総会において、諸先輩から貴重なアドバイスを受けたいと願っている。

なお、本年度から支部長は小澤杉男先生から渡辺明先生に引き継がれ、本支部会の運営・発展に当たっている。

静岡支部総会報告

支部長(43 理化) 恩田征弥

当支部は平成5年に発足。現会員数は今年2名の新加入があり、33名となった。定年退職後も各界各所で現役続投の会員が14名、現役では校長・教頭12名、教諭3名、教育行政4名となっている。本年度の支部総会は、11月25日(土)、三島市にて開催した。

遠藤宏理窓会静岡支部長講話

理科大創立125周年記念事業の意義と今後の本学の展望、記念事業の

一端紹介

本教育会の設立の経緯と役割

理窓会関連の報告：本部及び支部役員の人選

本部幹事 当会員の藤原有恒氏を推挙

支部長 東部地区：片瀬義昭氏（当会員）

中部地区：初田 昇氏（当会員）

西部地区：大野幸人氏

本県は、東中西の各支部をもって活動しており、総会も地区ごとに開いているので、毎年全県で百名ほどの出席があり、情報も広く行き渡っている方であろう。

支部長報告

本部作成の「教育会報」、同窓会誌「理窓」の記事などの資料を紹介し現状報告をした。

情報交換：話題とされた主な事項を挙げてみる。

- ・未履修問題への対応
- ・高校入試の改善検討への参画
- ・学校の危機管理
- ・学校の統廃合・再編成への取組み
- ・地域における中高の連携
- ・定年後の地域貢献

etc.

総会後は、会員各自からの近況報告を肴にして盃を重ね、絆を深めることができた。今後とも、絆を大事にして確かな歩みを刻んでいきたい。

富山支部総会報告

支部長（46 理窓数）小川悦朗

7月1日、二十余名が一堂に会し本県支部総会をもち、本学への関心を高めつつ、同窓会員相互の親睦を深める機会とさせていただきます。

わけても、ご多用のなか常任理事の幡野 純氏、並びに理窓会常任幹事の池北雅彦氏にお越し頂けましたことに対しまして、この場を借りて改めてお礼申し上げます。少子化の波が押し寄せるなかでの本学の経営戦略、豊かな人間性（豊富な教養科目）に裏打ちされた社会に有為な人材を輩出する本学ならではの特色ある取組み等を伺うことができました。

一方、同窓会員からは、母校の発展と評価を高める提案も挙げられました。私は、この雰囲気の中、本学の建学精

神にも通ずる進取な気風と愛校心の深さを、肌でひしひしと感じ取ることができました。

昨今の教育界を例にとると、現在の「ゆとり路線」の教育に懐疑の念が高まっております。折しも首相の意を受けた教育再生会議は、授業時間の一割増を打ち出しました。この先どのような回帰がみられるか予断は許せません。しかしこの先、高等教育も含め時代の要請に叶った基礎・基本を、人生の適時性のなかで学び手にしっかりと修得させてやらねばと考えております。

さて、この後、昭和52年本学工学部を卒業された四十物直之氏を講師に迎え、「昆布と北前船」と題し、ご講演を頂きました。

江戸時代に日本海沿岸の航路を行き来した北前船、その船荷であった昆布に係る様々な話題を栄養学的視点も織り混ぜながら、軽妙な語りで伺えました。先見性を抱きつつ、公益を尊んだ海産物商人の気概にも触れた思いがしました。

年一回の総会ではありますが、会員相互、様々な刺激を発生を受けたものと思います。このことを通し会員はこぞって元気をもらい自己啓発を図り、絆を強め合うことができたと確信します。

広島県総会報告

支部長（47 理窓数）河野正憲

教育会支部総会は、平成18年9月23日（土）にホテルセンチュリー21広島で理窓会総会に先立って会員12名が出席して開催しました。

本部から塚本恒世理事長、森野義男維持会会長、山口東京理科大学から菅井繁教授、竹永満教授にお越しいただきました。

議事内容は次のとおりです。

- 1 平成17年度の行事報告および決算報告
- 2 平成18年度の行事予定および予算案
- 3 役員改選

特に役員改選では、竹中三郎 前支部長、藤原美則 前副支部長には、支部発展のため長年お世話いただき心より感謝いたし

ます。

第2部では、塚本理事長より講話をいただきました。

東京理科大学の現状、将来構想、創立125周年記念事業等についてパンフレットやプロジェクターを用いて丁寧な説明をしていただき、母校の素晴らしい発展に卒業生として誇りを感じました。

東京理科大学で学んだ私たち同窓生は、お互いに縁を大切にして、理窓会支部会員の和を広げて行きたいと思えます。

福岡県総会報告と依頼文の雑感

支部長 (32理物)西嶋進一

会報27号に述べましたように18年度は支部の理窓会、教育会の役員が中心になって125周年記念を総会に含め11月23日(祝)に27名の参加で実施しました。

特別講演として

ミニコンサートで歌手祥子(H2卒)のライブステージは同窓の心をいやす不思議な力を与えてくれました。

ゲストとして金子常任幹事から10月8日の野田キャンパスで開催されたホームカミングデーの理大ネットワーク産学連携他125年史を中心に講演を戴き全員感銘の至りで盛会に終わりました。

次に教育会会長より2通の依頼文を戴きましたので、その感想を述べます。

2月15日付の常任幹事推薦の件ですが、6月25日の幹事会で理窓会会則の改定(案)が提案され7条の支部長、幹事は支部役員から抹消され「何の役員」か位置付けが不明でした。

併し19年2月10日付の選挙告示では「参考」として関係会則条文では支部長、幹事は支部役員と示されています。何故不明な改正が行われたのか... 如何ですか?

更に「理数教育アシストセンター」登録の願い(2月5日付)では教育会の果たさなければならぬ責務と述べられています。又最近のニュースでは理科離れ防止授業に支援員や助手配置を2007年度より実施。来年度は1万校目指すと文科省は60億の概算要求を計上されたと... 思えば平成7年5月に「エドモンド」会場での総会で有竹会長の挨拶に続いて橋高理事長の祝辞で最近理科離れがいわれ... 理科教員の養成が大切と力

説され又、西川学長は本年は卒業生の3%に当たる120名が、中高の教員になったと述べられた。それらの件について、懇親会のうちも理事長、学長、池田会長、塚本常任幹事他役員の方々と論議を交わしたことが懐かしく、14年の在任中の一番の思い出で、年月の流れの早さを痛感しつつ筆を置きます。

鹿児島支部総会報告

支部長(49理工工化)切手純孝

平成18年度の理窓会・鹿児島県支部総会が、10月28日(土)にステーションホテル・ニューカゴシマにて開催され、17名の会員の参加があった。今回も教育会の支部総会を兼ねての実施となった。

5年前から教育会と理窓会との連携をより密にしていこうという観点から、理窓会の支部総会と同日に開催している。

当日は、参加者一人一人の近況報告などを行い、会員が相互に親睦を深めながら、率直に教育に対する悩みや意見を交換し合った。先輩後輩の垣根を越えて、有意義な時間を持つことができた。特に、若い参加者にとっては、明日からの教育実践において、思いも新たに組み込むべく貴重な機会となったようである。同窓であればこそできる忌揮のない意見交換が、会員各人のレベルアップに繋がるものと思われる。

本県における理窓会・教育会の課題の一つとして、いかに新たな会員を発掘するか、またいかに総会への出席者を増やすかが挙げられる。その打開策としては、より魅力のある支部総会の運営が求められていると考える。会員相互のスキルアップを目指し、テーマを設定した研修等も盛り込んでいきたいと考えている。

更に、現在大学に在学している学生の保護者会との連携も新たな会員獲得にとっては、不可欠であると思われるため、保護者会にも積極的に参加させていただき、教育会の活動に対する理解を得たいと考えている。

今後とも微力ながら、教育会の一層の発展に寄与すべく、支部の充実を図る所存である。

東京支部総会報告

支部長（49専数） 廣瀬和昭

平成18年度の東京理科大学教育会東京支部定期総会は9月28日午後6時より、森戸記念館2階第1会議室で行われた。例年は土曜日か日曜日に総会を行っていたが、今年度は平日の木曜日夜の新しい試みで開催した。運営委員会の各部会や各委員会から平成17年度活動報告があり、続いて全国組織の状況や全国組織などの報告が伊藤理事からあった。また竹本会計委員長は欠席されたので、委員長作成の会計報告を代理の廣瀬が概要を説明しが承認された。また、平成18年度から東京支部長は酒井洋先生から廣瀬和昭新支部長に引き継がれることが承認された。酒井洋前支部長は理窓教育会会長に専念され、大学や理窓教育会の今後の発展のためにさらにご活躍されることになった。平成18年6月に創立125

周年を迎え、母校創立125周年募金活動について酒井会長からさらなる推進のお願いがあった。また、10月8日（日）野田校舎で行われる「ホームカミングデー」には多くの会員が結集するように、奥原理事、酒匂理事、伊藤理事から発言があり、参加券購入の分担を行った後、無事総会は閉会した。引き続き森戸記念館一階で懇親会を行った。約三十名が出席して、並木会計副委員長の司会で懇親会が開かれた。酒井洋会長は挨拶の中で、理科大出身の教員は多数輩出されているが、さらに教育界の優れた教員に育つように互いに協力しあい、改めて理窓教育会の重要性を訴えた。この教育会は大学と同窓の教員とを結ぶ重要な役割を果たしているはずなので125周年には積極的に協力していこうと挨拶された。

総会・懇親会は和やかな中にも収穫の多い満足感に満ちた内容であり、東京理科大学、理窓会、理窓教育会の発展を誓い、盛況のうちに終了した。

大学との連携

理窓教育会総務理事

（36理物）伊藤 操

1 「入学前学習支援」事業への協力

理窓教育会は会則に謳われている大学との連携の事業の一環として、東京理科大学の「入学前学習支援委員会」の設立に協力いたしております。この事業は、推薦合格者等の合格から入学までの期間の学習支援を実施するものです。

委員会は、数学、物理、化学の3分野で、1分野につき大学教員から2名、理窓教育会会員から2名の計12名と、理科大学入学者選抜検討委員会委員長の吉本成香教授および広報部入試センター課長、事務担当者の合計15名から構成されております。

また、添削委員は、教育会のOB会員と、東京理科大学大学院生から選出し数学18名、物理12名、化学12名が決まりました。委員長は吉本成香教授です。

活動の流れの概要は

推薦入学者等が東京理科大学入学までの学習活動を支援するもので、自習用問題集を作成しました。

各教科、30項目（ブロック）の演習問題にしました。

各教科それぞれ30問を選び、提出用問題としました。

問題集を推薦合格者等に送付し、提出用問題の解答用紙を提出させることにしました。

第一回提出 平成19年1月17日完了

第二回提出 平成19年2月17日完了

第三回提出 平成19年3月17日予定

第一回添削作業

理窓会館の3会議室で、添削打合せ会議、添削作業をしました。

教育会OBの添削委員は皆、久しぶりで演習問題に取り組み、時が経つにつれ、若き日の情熱を蘇らせておりました。

以上の事業により、推薦合格者等が学力を維持することは勿論、一層増進し、理科好きになり、入学後の充実した学園生活を送り、科学技術立国の中核的人材として育っていくことが期待されております。

2 国の小学校理科支援事業への協力

文科省は、「理科離れ」解消のため、小学校に退職教員、民間技術者などを動員し、小学校理科授業をサポートする事業を昨年8月18日に正式に決めました。

この決定の以前から、理科大学理事長の塚本桓世先生は、これこそ物理学校以来の伝統をもって、理科大学が社会に貢献できる好機である。直ちに協力体制を組みたいと情熱を燃やしており、教育会にも協力の打診をしまいいりました。

教育会は昨年6月17日に教育会の理事会、活性化プロジェクト委員会などの審議を行い、この大きな課題を検討し、協力していくことにしました。

具体的には、東京理科大学の組織として、「理数教育アシストセンター(仮称)」を立ち上げるための委員会(発起人会)が設けられました。委員の方は

東京地区

(43K) 會田良三、(47B) 齋藤常雄

神奈川地区

(39B) 瀧澤利長、(41B) 三浦トキワ
埼玉地区

(41B) 青木秀夫、(42B) 佐藤敏彦
千葉地区

(41B) 青樹征芳、(44B) 小倉正敬
の8氏であります。

第一回会議は昨年10月21日に理事長室で開かれました。第二回は10月27日に理事長室で開かれました。

ただいまの活動は、理事長(昨年11月30日付)、教育会会長(今年2月5日付)が各支部長に依頼しましたように、東京理科大学「理数教育アシストセンター(仮称)」への登録を促進することです。登録の期限は平成19年2月28日にしていましたが、随時補充していかなくてはなりませんので、希望の方は支部長を通して、下記までお知らせ下さい。

登録申込書の送付先

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学総務課校友係 宛

電話： 03-5228-8105

事務局より (再掲載)

現在、事務局には常駐事務担当者、専用電話、FAXがおけない状況です。当面連絡は、書面によって対処させていただきます(宛先は理窓教育会専用封筒に印刷してあり)。なお、急ぎの連絡は下記まで、メールによる通信をお願いいたします。

急ぎの連絡はメール通信を活用下さい。

msito330@rs.kagu.tus.ac.jp (理窓教育会総務理事 伊藤 操)

資料

校種 教科	公立中学校						公立 合計	私立中学・高等学校				私立 合計	公私 合計
	数学	理科	数学	物理	化学	他		数学	物理	化学	生物		
北海道			1				1						1
茨城	1		3				4	1				1	5
栃木				1			1						1
群馬	1						1						1
埼玉								3				3	3
千葉	7	1					8	1				1	9
東京	9	4					13	9	2	2	1	14	27
神奈川	3						3	4	1	3	1	9	12
長野								1				1	1
静岡	1						1				1	1	2
愛知									1			1	1
新潟								1				1	1
富山								1				1	1
広島								1				1	1
岐阜			1				1	1				1	2
岡山								1				1	1
沖縄	1						1						1
合計	23	5	5	1			34	24	4	4	3	35	69
18年度	27	5	7	2		1	42	18	2	2		20	62
17年度	40	4	11			2	57	18	3	1		22	79
16年度	37	3	14	4	1	3	62	18	3	2	2	25	87

昨年度までのデータは最終値、今年度のは現時点値である。
中学・高校共通採用の場合は中学校としてカウントした。

参考：個人情報保護法の影響により、就職課の調査活動が著しく困難になっております。昨年までの数値より減少しております。